

～消化器内視鏡スコープについて①～

● 上部消化管内視鏡(胃カメラ)で使用している内視鏡スコープ

通常の検査で使用している内視鏡の太さは口から挿入するもので約**9～10mm**くらいです。長さは1mほどです。一方、鼻から挿入する内視鏡は太さが**5～6mm**で口からの内視鏡に比べて半分ほどの太さです。長さは1.1mほどです。

これだけ聞くとなるべく苦しくないように、鼻からの内視鏡で全て検査を行ったら良いのではないかと思うかもしれませんが、デメリットもあります。以下に3点程挙げます。

- ①細く柔らかいので挿入していくときに押される感じが少し強くでることがあります。
- ②細い分、レンズ・吸引口が小さいため、より精密な検査をするには向かなかったり、胃の中の水を吸うのに時間がかかったりします。
- ③鼻の中が蛇行している場合、痛みや出血を起こすことがあります。

鎮静剤を使用することも1つの手段です。(鎮静剤については別資料を参照ください)
不安なことは是非、専門の内視鏡技師に相談して下さい！！

	先端外径	長さ
GIF-H290(経口スコープ)	8.9mm	1030mm
GIF-1200N(経鼻スコープ)	5.4mm	1100mm

● 大腸内視鏡で使用している内視鏡スコープ

大腸内視鏡検査で使用しているスコープの太さは、**11～13mm**ほどです。胃カメラで使用しているカメラより少し太いです。長さも少し長くなり1.3mくらいになります。

大腸の長さはおよそ1.6mです。カメラを挿入しながら腸を手繰り寄せて進んでいくので、最終的にカメラを70～80cmまで挿入すると盲腸まで辿り着きます。

しかし大腸の形には個人差があります。腸の長さが長い人もいれば、腹部の開腹手術の影響で癒着して腸の形が変形している場合もあります。このような場合は挿入が難しく、挿入時に痛みが出ることも多いです。

そのような方でも対応できるようなスコープがあります！超細径超軟性内視鏡は太さが**9.2mm**で、胃カメラで使用するスコープより細いです。長さは1.6mもあります。通常の大腸カメラより**細くて柔らかくて長い**ことが特徴です。

カーフがきつい大腸には細くて柔らかいスコープが有効ですが、柔らかすぎるスコープはコシがなく、押していくのに力が伝わりにくいデメリットもあります。当院には、柔らかさを変えられるスコープや、通常の太さで長さが長いスコープ、細くて長いスコープなど、様々なスコープを用意しています。是非検査前にご相談ください！！

	先端外径	長さ
CF-H290I(通常スコープ)	12.2mm	1330mm
CF-Q260AL(長いスコープ)	12.2mm	1680mm
PCF-PQ260L(極細径軟性スコープ)	9.2mm	1680mm